



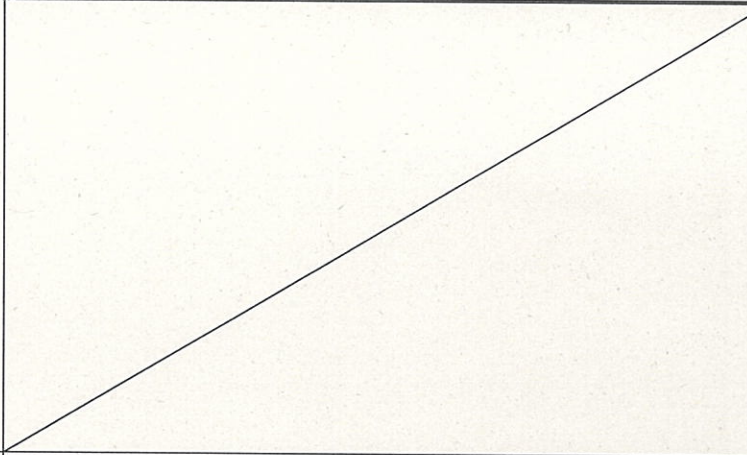
時期	平成27年9月1日(火)
場所	東京都臨海部(木材ふ頭ほか)

訓練の概要、検証のポイント

首都直下地震を想定して、国・東京都等の連携により実施する以下の訓練の中で、船舶を活用した医療機能の提供の可能性を検証する。

- 九都県市合同防災訓練(臨海部)
 - ・消防防災ヘリ等により「いずも」(船上SCU)に重症患者を搬送し、安定化処置を行った後、域外へ搬送。
- 大規模地震時医療活動訓練
 - ・全国から災害派遣医療チーム(DMAT)が参集し、SCUを設置して、航空機による重症患者の広域医療搬送等を実施。
- 船舶を活用した医療機能の実証訓練
 - ・大規模地震時医療活動訓練の中で、広域医療搬送の拠点となる羽田空港SCUに搬送される急性期患者の一部を収容し治療。
 - ⇒「いずも」がSCUや災害拠点病院を補完できるか検証。
 - ・「海鷹丸」により、透析患者等を船内で治療しながら被災地域外へ搬送。
 - ⇒航行中の医療機器使用について検証。

※具体的な停泊想定地は未定

		急性期	慢性期
公的船舶	<ul style="list-style-type: none"> ○発災後の迅速な調達が可能 ○アメニティが低い ○緊急性、非代替性の観点から長期の利用は困難 	<ul style="list-style-type: none"> ○洋上の臨時医療施設 (接岸なし、ヘリ甲板) 【H25：三重県沖】 (野外手術システム搭載(手術有)) 【内容】 海上自衛隊「しもきた」にドクターヘリ等により患者を搬送し、簡易手術による安定化処置が可能かどうか検証 【評価】 ①船内手術による根本治療は困難、安定化処置は可能 ②転送先、後方搬送手段が確保できるかどうか 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○発災後の迅速な調達は困難 ○客室を備えた客船・フェリーはアメニティが高い ○ヘリポートがない 	<ul style="list-style-type: none"> ○重症者の臨時救護所 (接岸、背後地にヘリポート) 【H26：東京港晴海ふ頭接岸】 (国内型緊急対応ユニット(手術無)) 【内容】 接岸したカーフェリー「はくほう」に救急車により患者を搬送し、トリアージ及び安定化処置を実施し、被災の少ない医療機関に搬送する際の臨時救護所として機能するかどうか検証 【評価】 ①トリアージ、簡易な安定化処置が可能なSCUとしては一定程度機能(大型ヘリの離着陸場所が必要) ②転送先、後方搬送手段が確保できるかどうか ③発災直後からの急性期に民間船舶を調達できるか 	

平成27年度大規模地震時医療活動訓練等のイメージ（首都直下地震）（案）

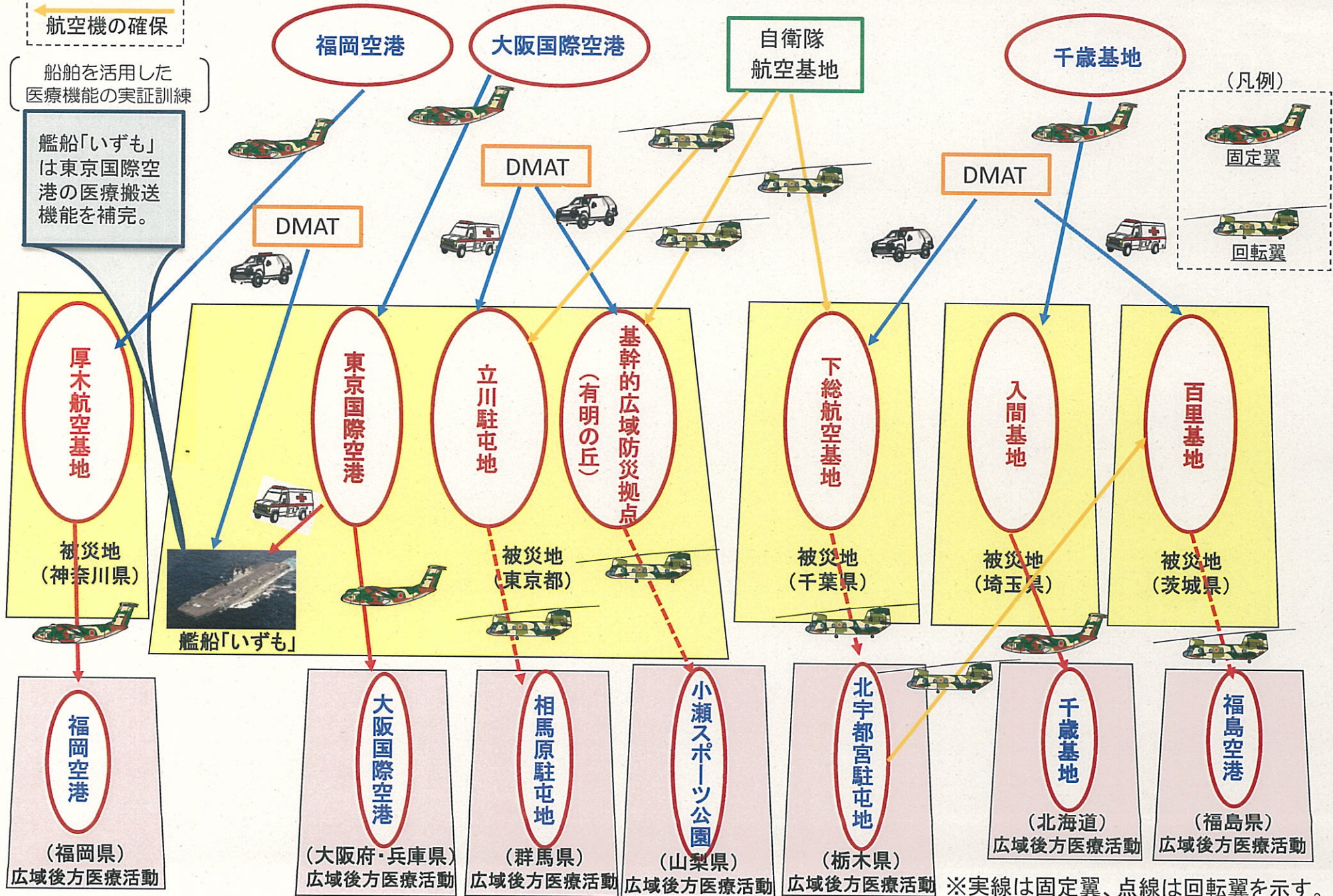
（凡例）



船舶を活用した
医療機能の実証訓練

艦船「いずも」
は東京国際空
港の医療搬送
機能を補完。

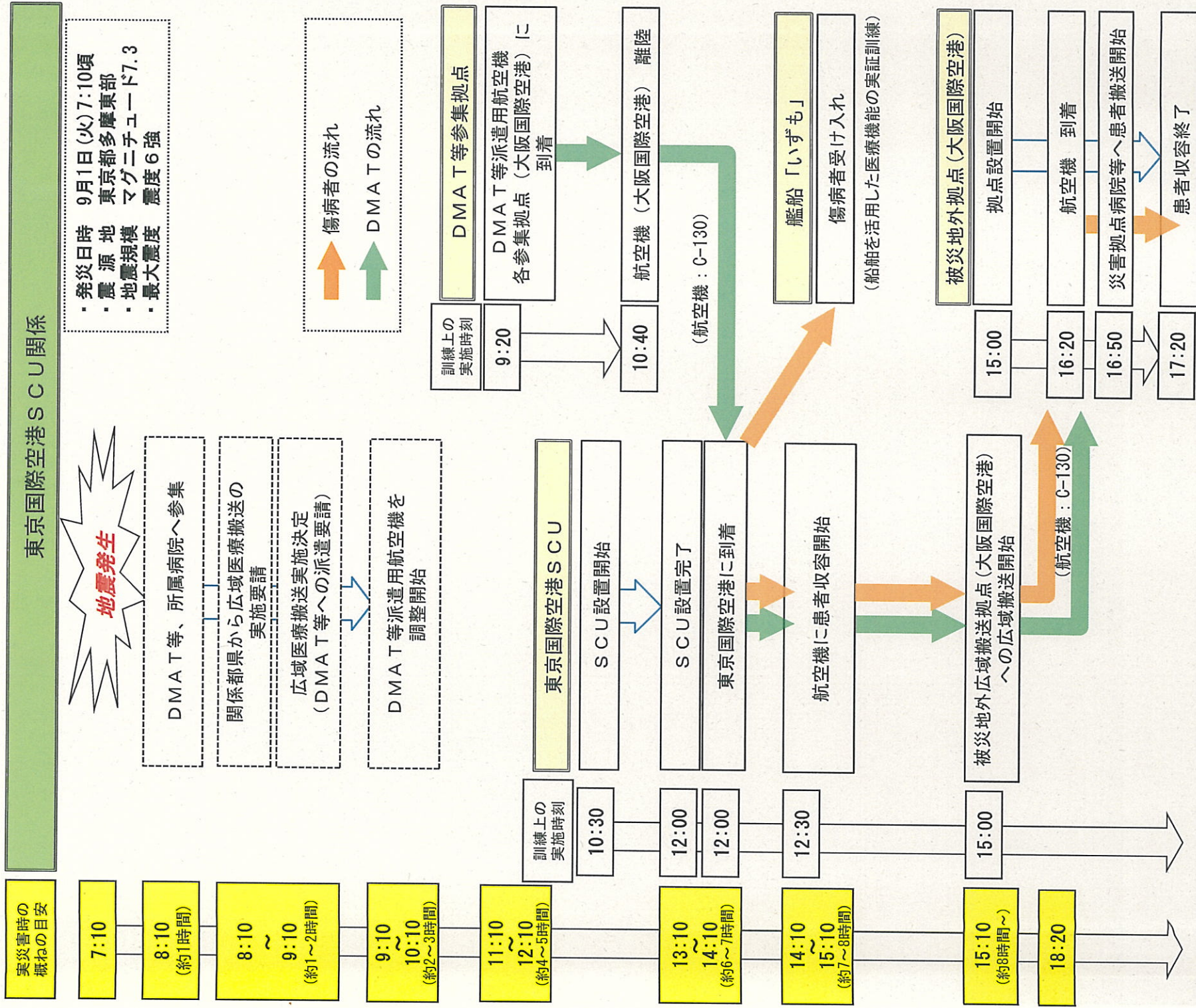
（凡例）



※実線は固定翼、点線は回転翼を示す。

平成27年度 大規模地震時医療活動訓練等 訓練時系列

平成27年7月17日現在



平成26年度の訓練事例（鹿児島空港SCU）



SCU本部の状況



SCU全景



C-130機内換装の様子



C-130機内へのDMAT搭乗



C-130機内の患者搬送の様子